

# ウェブ情報利活用 ワーキンググループ報告

平成16年10月27日

ウェブ情報利活用ワーキンググループ・グループリーダー  
田中 克己

## ウェブ情報利活用ワーキンググループについて

平成16年4月26日  
デジタル資産活用戦略会議了承

### 1 趣旨

「デジタル資産活用戦略会議・開催要綱」に基づき、ウェブ情報アーカイブを推進するためのワーキンググループを開催する。

### 2 検討事項

- (1) ウェブ情報アーカイブの具体的な推進方策
- (2) 実証実験の実施内容 等

### 3 構成員等

「デジタル資産活用戦略会議」の座長がグループリーダーを指名し、構成員についてはグループリーダーが指名する。

### （参考）

#### ウェブ情報アーカイブ推進の課題

- 1．ウェブ情報アーカイブ構築技術の検討
- 2．ウェブ情報アーカイブ用メタデータ
- 3．ウェブ情報の権利問題
- 4．実証実験の実施

# ウェブ情報利活用ワーキンググループについて(2)

## デジタル資産活用戦略会議 ウェブ情報利活用ワーキンググループ開催要綱

### 1 会の名称

ウェブ情報利活用ワーキンググループ(以下、「ウェブ情報利活用WG」という。)

平成16年7月30日  
ウェブ情報利活用  
ワーキンググループ了承

### 2 背景・目的

文化遺産情報等の公共的なアーカイブコンテンツをデジタル資産として、社会・経済・文化等の多様な活動に活用し、新たな価値を創造していくことが求められている。このため、公共的なデジタル資産のオンライン流通や素材としての利活用を促進するためのインフラ、技術、制度等のあり方を総合的に議論し、デジタル資産の利活用の高度化の推進に資することを目的として、「デジタル資産活用戦略会議」が開催されている。今回、同会議の開催要項に基づき、デジタル時代の知識・文化が結集されたウェブ情報の利活用を推進するために必要な諸課題の検討等のため、本ワーキンググループを開催する。

### 3 ウェブ情報利活用WGにおける検討事項

- (1)ウェブ情報アーカイブの具体的な推進方策
- (2)実証実験の実施内容 等

### 4 ウェブ情報利活用WGの構成

- (1)構成員は別紙のとおりとする。
- (2)ウェブ情報利活用WGにはリーダー1名を置く。
- (3)リーダーは、「デジタル資産活用戦略会議」の座長が、その構成員の中から指名する者があたる。
- (4)リーダーは、ウェブ情報利活用WGを招集し、主宰する。
- (5)リーダーは、必要があるときは、構成員を追加することができる。
- (6)リーダーは、必要があるときは、外部の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (7)リーダーは、上記のほか、文化遺産WGの運営に必要な事項を定める。

### 5 開催期間

平成16年7月から平成17年3月までを予定。

### 6 庶務

ウェブ情報利活用WGの庶務は、総務省情報通信政策局コンテンツ流通促進室が行う。

# ウェブ情報利活用ワーキンググループについて(3)

## デジタル資産活用戦略会議 ウェブ情報利活用ワーキンググループ 構成員

(五十音順・敬称略)

### (リーダー)

田中 克己 京都大学 大学院情報学研究科教授

### (構成員)

安達 淳 国立情報学研究所 情報学資源研究センター長  
飯澤 篤志 (株)リコー ソフトウェア研究本部ユビキタスソリューション研究所長  
植月 献二 国立国会図書館 電子情報企画室長  
大久保和弘 松下電器産業(株) 首都圏本部地域情報システムグループ営業推進チーム担当課長  
岡本 真 ヤフー(株) リスティング事業部サーファードータベース編集チームリーダー  
金田 光範 (株)東芝 電力・社会システム社事業開発推進統括部情報制御事業推進室長  
河野 浩之 南山大学 数理情報学部教授  
岸上 順一 日本電信電話(株) 第三部門プロデュース担当プロデューサー  
近藤 学 (株)インターネットイニシアティブ ソリューション本部プロダクト推進部プロダクトマネージャ  
角谷 和俊 兵庫県立大学 環境人間学部教授  
武田 浩一 日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所・ナレッジ・インフラストラクチャ担当次長  
津田 宏 富士通(株) 富士通研究所ITメディア研究所言語処理研究部主任研究員  
中村 秀至 (株)三菱総合研究所 社会システム研究本部社会システム事業研究部長主席研究員  
根本 啓次 日本電気(株) ソリューション開発研究本部シニアマネージャー  
廣石 高 三菱電機(株) e-行政部技術課長  
山名 早人 早稲田大学 理工学部助教授  
山本 一秀 (株)インフォシティ サーバースystem開発事業部事業部長  
横澤 誠 (株)野村総合研究所 研究開発センター上席研究員

# 開催状況

## 第1回会合（平成16年7月30日開催）

### < 議事 >

#### 平成16年度予算と実証実験について

総務省から、ウェブ情報のアーカイブ化の促進に関する平成16年度予算と実証実験の概要について説明。

#### 国立国会図書館のウェブアーカイブへの取組について

植月構成員から、国立国会図書館におけるウェブ情報アーカイブの取組状況について説明。

### < 主な意見等 >

利活用のニーズを踏まえて実証実験するのが良いが、とりあえず収集するというプライマリニーズに基づいて実験しても良いだろう。

アーカイブ化されたコンテンツの権利許諾についてもメタデータを利用すべきだろう。

メタデータの付与には工夫が必要。全てを人手でやると、膨大な労力がかかる。

実際のウェブ情報には深層ウェブと表層ウェブの中間的なものが多い。

jpドメインのみならず「日本の」ウェブサイトをバルク収集する方法の検討が必要ではないか。

不適切なサイトをアーカイブする意義はあるのか。

深層ウェブの収集が困難であれば、データベースごと収集すれば良い場合もある。

ユーザーニーズを踏まえた実証実験を実施して頂きたい。

重複保存の回避については、重複箇所に「重複している」というメタデータを付与した方が良いだろう。

国際展開をにらみ諸外国のウェブ情報アーカイブで使用されているメタデータを参考にすべき。

ウェブ情報アーカイブの利活用に際しては、商用の検索エンジンの機能との重複を排除した方が良い。

大量かつ長期に保存するという特性も考えてストレージを検討すべき。磁気テープによる実験は有効である。

英国のアーカイブの状況もよく調査したほうが良いだろう。納本制度ができていないはず。

ユーザ利便性を第一に考えるべき。インターフェイスに工夫が必要だろう。

特殊なビューアによるアーカイブ閲覧は不便。

社会的にもウェブ情報アーカイブは重要だし、個々の組織体でも重要になっている。様々な主体によるアーカイブが出現した際に、これらをうまく連携できると良い。

第一回会合においては、国立国会図書館における取組を報告するとともに、平成16年度総務省の実証実験の方向性（配布資料4を参照）について検討を実施。

# 開催予定

## 第2回会合（平成16年10月27日開催予定）

### < 議事（案） >

#### 諸外国におけるウェブアーカイブに関する調査報告

総務省から、諸外国のウェブ情報アーカイブに対する取り組みについて説明予定。

#### ウェブ情報アーカイブの利活用方法に関する調査研究（案）

総務省から、実証実験と併行して実施するウェブ情報アーカイブの利活用方法に関する調査研究（案）についての説明後、検討する予定。（配布資料4参照）

#### ウェブ情報のアーカイブ化の促進 平成17年度概算要求について

総務省から、ウェブ情報アーカイブに関する平成17年度概算要求について説明予定。